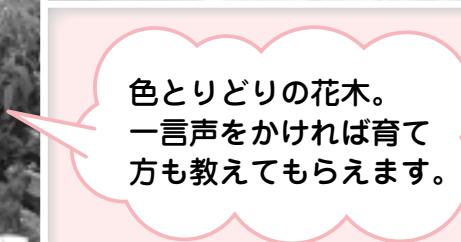


## うりもの 百景



品定めしながら  
歩いてみるのも  
楽しいですよ。

色とりどりの花木。  
一言声をかければ育て  
方も教えてもらえます。

## 市に集まる物と人

平成7年 安城市歴史博物館発行  
「安城 食の風景」から

南明治の八幡社で四と九の付く日にひらかれる四九の市の歴史は、昭和30年代の後半から新しいが、南明治を中心に多くの人が買い物に出かける。露店は60店ほどが並ぶ。やきもの、刃物、鮮魚、野菜、果物、漬物、茶、切花、植木屋、下駄足などがある。

こうした人の集まる場所には、その場で立ち食いのできるような食べ物を売る店が、必ずといっていいほど出ている。そこでは、買い物に来た客の足を止めさせるに十分すぎる、匂いを出して食べ物を焼いている。そうしたいくつかの匂いや、けむりなどが入り交じって市特有の雰囲気を作り出している。

それにしても腹の減った時の立ち食いは、こたえ

客を待つ売り子▶



られない。寒い日など特にそうである。買い物の客も露店をのぞいて回るうちに知らず知らず荷物が増えた。ひと休みしたいところに食べ物を売る店が出ている。目の前で食べ物が焼けてくるのを目でおいながら、焼き立てを口にはこぶ。うまいわけである。露店の食べ物屋は、市に行くもうひとつの楽しみでもあった。

(平成7年3月30日発行。一部抜粋)

朝8時。寒風が少し吹く中、「広報の取材で来たんですが」と声をかけると、「おっ、取材か? いいぞ、1回100万円な」と満面の笑みを浮かべながら、そんな言葉が返つてきました。

いつもは、静かなこの花ノ木町八幡社も、4と9のつく日、一ヶ月に6日間は人と自転車と車で大にぎわいになります。そ

う、今日は昭和30年代から50年近くも続く「朝市」の日です。

そこでは、売り手と買い手の会話が飛び交い、客どうしも「久し振りだね」と近況を語り合など、世間話に花が咲きます。あちこちで食べ物を焼く音がして、太陽に照らされて光輝く果物たちに囲まれ、人と人の触れあいで醸し出される温かい世界。

今ではもう異空間になりつつあるこの場所で、今回「もの」「笑顔」ちょっと「いい話」を探してみました。



## 「もの」「笑顔」「いい話」：

### 好み焼きやさんに聞いてみました



西三商業協同組合  
太田 森さん

この朝市には、当初から店を出しているから、もう50年近くにあつた更生病院が移転したりで、現実に客は減ってきた。若い人もあまり来なくなつたし、でもここは、我々と客が顔と顔をつき合わせてやりとりする。最近は、大型店ができたり、近くにあつた更生病院が移転したりで、現実に客は減ってきた。若い人もあまり来なくなつたし、でもここは、我々と客が顔と顔をつき合わせてやりとりする。だから、景気の動向や世の中の動きなんかも敏感に感じることができ。言ってみれば新鮮な品と新鮮な情報を提供できるつすことかな。そこが、ほかとは違うところだね。

ここで物を売っている我々は皆、物を物で交換していくところからの商売人の精神をしつかりと受け継いでいるんだと思う。

いいもん見つけてね!



現在、このようなところで朝市が行われています

### 八幡社 四九の市



### 桜井神社 二七市



「おはようございます」「こんにちは」  
これが一般的なあいさつですが、ここにはもっといっぱいあいさつの言葉があります。

「なんだ、あんた元気かん?」「寒いで、運動がてらにきた」「よ~、オレ病気治ったわ」

そんなあいさつから始まる、時に親しく、時に思いやりがあり、ちょっと笑ってしまう、売り手と買い手の機知に富んだやりとりをほんの少しのぞいてみました。

売り手 買い手



「いらっしゃい、まつったよ~」  
 「今日何がいい?」  
 「全部いいで、全部買ってきな!」  
 「どうしようかな~。これにしようかな」  
 「それか。んな、まけたげる。でもみんなには内緒にしといてよ」



「今日、500円玉しかもっとらん。500円にしちきな」  
 「これが500円なら、店閉めるわ」  
 「じゃあ2つ買ったげるで1000円にしな」  
 「さっき500円しかないって?まあいい、1000円置いて持ってきてな」



「この前、いいもの売ってもらったからね。北海道で昆布のお土産買ってきた」  
 「そんな、商売屋がもらっとっちゃあ、おかしいって」  
 「いいで、もらっときな」  
 「いやあ、ありがとねえ。ホントうれしいわ」